



高等学校

公民

全学年

地域の行政機関などに実際に提案する 課題解決型授業の実践

地域の行政機関などに実際に提案することを通して、生徒の「自分の行動で国や社会を変えられる！」という感覚を高める授業実践と、そのポイントを紹介します。

実践のねらい:地域社会の課題を見つけ、解決策を考え、実際に提案することで、生徒の「自分の行動で国や社会を変えられる」感覚を高める。

【授業例】

(3~4人を1グループとした課題解決型学習)

目安:6~12時間

a.地域社会の課題を見つける

地域社会の課題を見つけます。
授業前に考えてくるようにしても良いです。

b.地域社会の課題の解決策を考える

見つけた課題の解決策を考えます。
後にブラッシュアップするので、この時点で思いつく内容で大丈夫です。

c.解決策をブラッシュアップする

現状すでに実施されている解決策、費用などの観点から、解決策の実現可能性を高めるためにブラッシュアップします。

d.解決策の提案先を考える

ブラッシュアップした解決策を、どこに提案すれば実現につながるか考えます。

e.解決策を実際に提案する

解決策を提案先に実際に提案します。
提案する方法には、提案先の条件や環境により、対面の他、問合せフォームや電子メールが考えられます。

f.提案先からのフィードバックを踏まえて振り返る

提案先からのフィードバックを踏まえて、自分たちの提案の良かったところや、どうすればより良い解決策になるかを振り返ります。場合によっては、案を修正の上、再提案します。

「自分の行動で国や社会を変えられる」という 感覚を高めるための四つのポイント

① 発見～提案の経験

単元の中で、課題を見つける→解決策を考える・ブラッシュアップする→実際に提案するという過程を経験することです。

課題発見から課題解決に至る一連の流れをイメージできるようになります。

② 周りからの後押し

グループ活動などの協働的な活動をする中で、生徒同士がやり取りをしたり、教師からのフィードバックを受けたりすることを通して、積極的に行動できるようになることです。

③ 実社会で使われる方法

解決策を実際に提案する活動において、授業のために用意した手法(教師が集約するなど)ではなく、実社会のシステム(問合せフォームや電子メールなど)に即して進めることです。学校を離れた実社会での応用につながります。

④ 提案先とのコミュニケーション

解決策を、提案先の相手に実際に伝えたり、相手からの返答を受け取ったりして、生徒と提案先の間でコミュニケーションをとることです。

生徒の「自分たちの意見がきちんと伝わるんだ」という実感につながります。

【授業例】では、「e.実際に提案する場面」、「f.提案先からのフィードバックを踏まえて振り返る場面」が相当します。

四つのポイントを踏まえることで、
生徒の「**自分の行動で国や社会を変えられる!**」という感覚を
高めることにつながると考えられます。

詳細は、総合教育センターWebサイト 長期研究員 研究報告(R5)
をご覧ください。